

「けやき音楽愛好会」

2018年4月 第11回例会 活動記録

代表世話人：崎長 信正

1. 日 時： 2018年4月6日（金）13：30～16：00

2. 場 所： 学習室

3. 会員数： 前月比-1+3 44名

4. 出席者： 32名

5. 活動記録

(1) 崎長代表 新入会員の紹介。

(2) 2017年度会計報告（中山世話人）

(3) 富田世話人の解説を挟みながら、DVDにて下記の曲目鑑賞。

(a) ららら♪クラシック「諏訪内晶子 特集」から

「タイスの瞑想曲」歌劇「タイス」第2幕第1場と第2場の間奏曲

マスネ（1842～1912）仏 作曲 演奏：諏訪内晶子

(b) ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 Op 47 シベリウス（1865～1957）フィンランド 作曲

シベリウスは若い頃ヴァイオリニストを目指していたが、あがり症のため断念してしまった。そうした彼による唯一のヴァイオリン協奏曲となった。

1903年に作曲、翌1904年初稿版で初演されたが、結果は芳しくなかった。

初演後の1905年にブラームスのヴァイオリン協奏曲を初めて聴いたシベリウスは、自らの協奏曲よりもさらに徹底してシンフォニックなこの作品に衝撃を受け、本作を現在我々が耳にする形に改訂した。それは独奏楽器の名技性を抑えて構成を緊密化、凝縮し、より交響的な響きを追求したオーケストレーションへと変更した。

演奏：諏訪内晶子 フィンランド放送交響楽団

指揮：ハンヌ・リントウ（1967～）フィンランド（2015.11.4 サントリーホール）

(c) ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」Op 50 チャイコフスキー（1840～1893）露1882年作曲

旧友ニコライ・ルビンシテインへの追悼音楽であるため、全般的に悲痛で荘重な調子が支配的である。

第2楽章はピアノに高度な演奏技巧が要求され、ピアノを用いるチャイコフスキー作品の中で、おそらく最も演奏が至難である。演奏時間は50分近い。

演奏：ヴァイオリン 諏訪内晶子

チェロ マリオ・ブルネロ（1960～）イタリア

ピアノ ボリス・ベレゾフスキー（1969～）ロシア

（2017.5.31 紀尾井ホール）

(3) 例会後、「PLUMERIA」にて懇親会実施。多数参加し交流を深めた。

次回例会： 2018年5月4日（金）みどりの日 13：30～

グレン・グールド（ゴールドベルク変奏曲）

以上